

# 多くの市民から貴重な意見 広報アンケートの結果から

平成19年10月号の広報による配布した広報アンケートの結果をお知らせします。回答は208通で、うち94通については貴重な意見・提言が寄せられました。

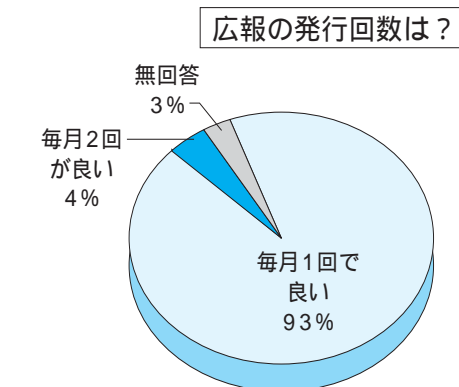
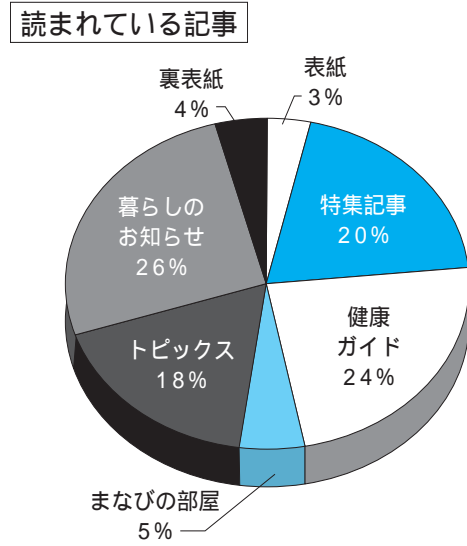
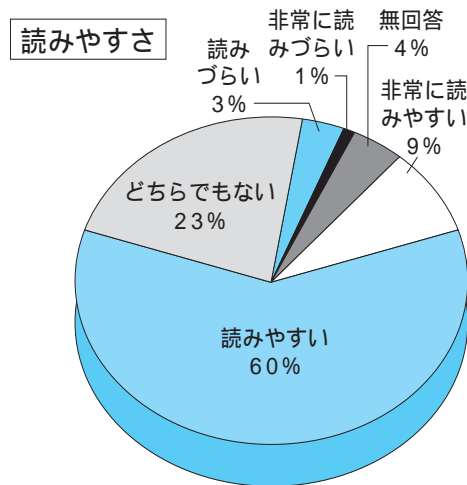
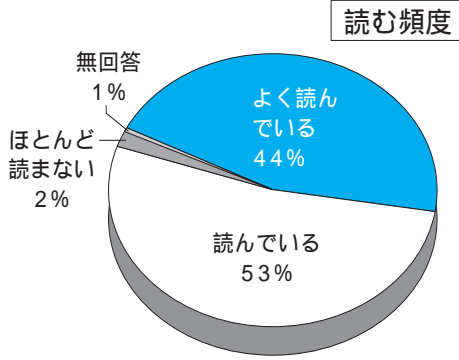
## 回答者について

### 年代別の回答者

回答者の年代別構成では、70歳以上の方でほぼ半数を占め、50歳代、60歳代を合わせると回答者の9割を超えています。一方、10歳代、20歳代では回答がなく、30歳代と40歳代が合わせて1割程度の構成率となっています。

### 居住年数と居住地区

居住年数では、10年以上居住の回答者が9割を占めています。また、居住地区では名寄地



## 広報なよるについて

アンケートでは、読む頻度、読みやすさ、読まれている記事数と広報の発行回数についてアンケートを行いました。広報を読む頻度は？最初に、読む頻度では、よく読んでいると読んでいるを合わせると97%を占めています。次に、広報なよるの読みやすさについては、非常に読みやす

区に居住する回答者が94%になっています。

すい9%、読みやすい60%で、合わせて7割の方が、読みやすさについて一定程度の良い評価を寄せていただいています。今後は、4人に1人の割合で回答のあった「どちらでもない」とする声に対応するための研究が必要になります。

読まれている記事は？3項目について複数回答を求めました。回答では、一番読まれている記事が「暮らしのお知らせ」で、次いで「健康ガイド」、「特集記事」になっていて、この上位3項目で7割を占めています。上位3項目に「トピックス」を加えると、88%で全体の9割を占めることになり、これら4項目を一層充実すること、全体の底上げを図る必要があります。

広報の発行回数は？最後に、広報なよるの発行回数

## その他の広報について

広報なよる以外の情報伝達手段としては、新聞広報とFMラジオ広報があります。新聞広報は、従来名寄新聞に掲載していたものを合併を機会に北都新聞にも拡大しました。広報なよるでは情報伝達の機動性が問題で、それを補完する手段として7割を超える市民が読んでいると回答しています。ただし、4人に1人が読んでいな

## 意見・提言について

回答をいただいた208通のうち、94通についてはご意見・ご提言をいただいています。部局別では、総務部が86通、次いで生活福祉部と議会が各10通。経済部と教育部各3通、建設水道部2通、大学1通となっています（重複あり）。今後の広報なよるの編集に活かしていきたいと考えています。

数に関する項目では、毎月1回で良いとする声は9割を超えて圧倒的多数でした。発行回数を増やすことで、より機動性のある情報提供が可能になります。自治体の財政不安などから、発行回数を減らす提案があるなど、今後とも月1回の発行を維持しながら研究を進めていく必要があります。

FMラジオ広報は開始後間もないものの、聴いていると聴いたことがあるを合わせた割合では56%になっていますが、聴いたことがない回答者の割合が42%で、最も機動性の高い広報媒体としての研究が必要です。